

中島 美静・葉 明慧 二人の陶展「手の気配」のご案内

“アートギャラリーのようでギャラリーではない — A gallery, but not a gallery.”
BIOME（バイオーム）から 2026 年 8 月開催される展覧会について、ご案内いたします。

展覧会情報

中島美静・葉明慧 二人の陶展

「手の気配」

会 期：2026 年 8 月 15 日（土）から 9 月 6 日（日）まで

時 間：12:30 - 18:30 最終日のみ 12:00 - 15:00

休廊日は水曜・木曜日となります。

*事前の予告なく内容が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

*最新情報は、BIOME のウェブサイト、Instagram などでご確認ください。



BIOME は、2026 年 8 月 15 日（土）から 9 月 6 日（日）まで、中島美静（Mishizu Nakajima）氏と葉明慧（ヨウメイケイ Yap MinHui）氏による陶の二人展「手の気配」を開催します。
タタラ成形による作品に、白化粧、いっちゃん、釉薬を重ね、白の差異と形の動きを模索してきた中島美静氏。荒い白泥を手捻りで成形し、色化粧土を何層にも重ね、その上に線描を加えた作品をつくる葉明慧氏。タイプの違う作家による陶の二人展となりますが、異なる作風の陶を通して、素材との距離や温度をはかりながらかたちづくられる、お二人の作品の特徴に注目していただきたいと思います。

お二人との出会いは BIOME の恒例企画である「たからもの for おくりもの 2022」でした。陶磁のカテゴリーにて出展いただいてから、改めてご紹介する機会をと思いながら、神戸・御影移転の最初の年に開催する運びとなりました。

*文章中に出てくる陶の制作などに関する用語については、本ニュースリリースの後ろのページに記載しています。

企画について

「手の気配」とは、土を曲げる手、乾きを待つ手、触れすぎない手、色を重ねる手、線を引く手から。それらすべての手の仕事、そこから得られる感覚から、作品を見ていただきたいと思い、表現したタイトルです。

お二人の陶は、シンプルな手捻りの陶というよりは、形、装飾、細部、表面の扱いに、手先を駆使した様子がわかるものです。またお二人の意匠へのこだわりや意欲が感じられます。

陶芸の制作には、土、釉薬、火などが関わりますが、素材に触れ、その行方を決めていくのはアーティストの手です。

中島美静氏は、タタラ成形を中心に制作しています。土を板状にのぼし、乾きの段階を見ながら曲げ、接ぎ、形を決めていく方法です。近年は、底部にアールをもたせた器や、高台をつけない器など、置かれた器の中に動きを含ませる制作が中心になってきています。白化粧、いっちゃん、釉薬によって重ねられる白は、単色の白ではなく、質感や光の受け方の違いを持っており、和紙を貼り重ねたかのような雰囲気素材で、他にはない作品となっています。

葉明慧氏は、石や砂を含む荒い白泥を用い、すべて手捻りで成形します。作品の表面には、色化粧土を何層にも重ね、その上に線描を加えます。作陶を休んでいた期間に刺繍へ関心を持ったことが、現在の絵付けにつながっていると言います。また、マレーシア、韓国、中国の古代劇に見られる服飾への関心も、色と模様の感覚に関わっていることが見てとれます。丁寧に重ね、成形した作品の表面は、葉氏が生まれた国での生活や環境の反映を思わせるユニークな特徴がみどころです。

お二人の陶は、器や花器が中心で、手に取ることができます。

二人展「手の気配」では、花や料理を必要とする作品のご提案を前面に出すのではなく、陶そのものの形、表面、色、触感をじっくりご覧いただきたいと考えています。白の重なりと動きのある形。荒い土と色、線の重なり。陶に宿されたお二人の手の温度や、制作の時間を、BIOME にて紹介していきます。

みどころ

中島美静氏と葉明慧氏。意匠の方向、制作方法が異なります。作風の近さがお二人を結びつけるのではなく、作品に至るまでの“手”がお二人を結びつけていると BIOME は考えます。

触れすぎず、どこで曲げ、どこで接ぎ、どこで装飾を止めるのか。頭で判断しているのではなく、手が判断する—そんな気にさせてしまう、お二人の作品をアート作品として愛でていただきたいと思います。

アーティストプロフィール



中島美静 / Mishizu Nakajima

1973 年、東京生まれ。1996 年、明星大学日本文化学部生活芸術学科卒業。
1997 年、同学科彫刻科研究生修了。2003 年、明星大学造形芸術学部研究科陶芸専攻修了。
2008 年、東京都あきる野市に築窯。2003 年から 2017 年まで京王ギャラリー「米の器展」に出展。
2016 年より京王美術・工芸サロンで個展を開催。2026 年 3 月、GALLERY 凜空で個展。



葉 明慧 / Yap MinHui

1979 年、マレーシア・クアラルンプール生まれ。1998 年、来日。2000 年、芸術短期大学卒業。
2002 年、多治見市陶磁器意匠研究所修了。2002 年から 2007 年まで陶磁器商社や窯元でデザイン・企画を担当。2008 年、第 8 回陶磁器国際フェスティバル美濃 デザイン部門審査員賞。現在、岐阜県可児市にて制作。2023 年、ギャラリーヴォイス「今のうつわ これからのうつわ PartV」に出品。
2024 年、市之倉さかづき美術館 ギャラリー宙で個展。

技法・素材用語

- ・タタラ成形
土を板状にのぼし、切る、曲げる、組むなどして形を作る方法。
- ・いっちゃん
泥状の土を細い口から絞り出し、線や点を盛り上げて描く装飾技法。
- ・白化粧
素地の上に白い泥をかける、塗る、重ねる技法。土の色や質感に別の表情を加える。
- ・色化粧土
色をつけた泥状の土。器の表面に塗り重ね、色や層を作る。
- ・白泥
白い泥状の土。本リリースでは、葉明慧が用いる素材の説明として記載している。
- ・手捻り
ろくろを使わず、手で土を積む、押す、伸ばすなどして形を作る方法。
- ・釉薬
焼成によって表面にガラス質の層を作る材料。器に色、艶、質感を与える。
- ・高台
器の底につく台座部分。器を支え、持ち上げる役割を持つ。

※技法用語の説明は、陶芸・工芸関連の一般的な用語解説を参照し、作家ご本人のアンケート回答および本展覧会の内容に合わせて BIOME が編集しています。（確認日：2026 年 6 月 12 日）

以 上

お問い合わせ：

BIOME（バイオーム）

兵庫県神戸市東灘区御影 2 丁目 6 番 11 号

BIOME 御影 Alcove 1 階（〒658-0047）

栗山典

メール：artroom@biomekobe.com

Web：www.biomekobe.com

現在、電話での対応は行っておりません。メールにてお問い合わせください。